

# 水稻晩期栽培における苗代日数について

加島了相\*・平野 勝\*・飯田 晋\*

KASIMA, R., HIRANO, M., and HANDA, S. Duration of the Nursery Period in the Late-sowing System of Rice Plant.

水稻の晩期栽培に於て、7月下旬及び8月上旬を挿秧期とする場合における適正な苗代日数を知らうとして、1953年より3ヶ年試験を行い結論を得たので報告する。

**試験方法** 供試品種は、農林29号、農林37号の2品種で、試験区は、挿秧期を7月29日、8月5日とし夫々苗代日数15、20、25、30日の各区を設けた。苗代は折衷苗代とし、坪当2合播、施肥量は坪当硫酸20匁、過石30匁、塩加25匁であった。本田の栽植密度は、坪当90株(8寸×5寸)、1株5本植とし、反当硫酸6貫、過石3貫、塩加3貫を全量基肥した。

**試験成績並に考察** 1) 苗としては、草丈30cm、葉数1.1~1.4、苗令4.7葉程度の20日苗が好ましく、25日苗(5.2~5.5葉)が之に次ぐと考えられた。

2) 本田における生育経過をみると、また穂数型の農林29号は、15日、20日苗区が、25日、30日苗区より葉数は多くなる経過を示していたが、農林37号では、反対傾向であった。

3) 出穂成熟期は、苗代日数の短い区程遅く、7月

29日植区では、両品種共15日苗が、また8月5日植区は15日、20日苗区が、何れも登熟日数の確保が困難であった。稈長は、苗代日数の長い区が長く、穂長は、7月29日植区では、20日苗区最も長く、25日、30日苗区の順であったが、8月5日植区では25日、30日苗区が長かつた。穂重についても全く同一傾向であった。穂数は、7月29日、8月5日植区共20日苗区が最も多く、25日苗、30日苗が之に次いだ。また穂数の構成は、主穂一次が95%以上であり、苗代日数の短い区程二次の割合が多い。一穂稔実粒数は、7月29日植区では20日苗>25日>30日苗、8月5日植区では、農林29号は25日苗、農林37号は30日苗が、他区より明らかに多い。

4) 収量は、7月29日植区が8月5日植区より明らかに多収を示し、7月29日植区内では、農林37号>農林29号、20日苗>25日苗>30日苗>15日苗の順であった。8月5日植区では、品種間の収量差はなく、25日30日苗区は、顕著に20日15日苗区より多収傾向を示した。収量の年次間差異は大きく、特に挿秧期が

試験区別		農 林 3 7 号					農 林 2 9 号				
移植期	苗代日数	稈長	穂長	穂数	玄米千粒重	比量比率	稈長	穂長	穂数	玄米千粒重	収量比率
		cm	cm	本	gm	%	cm	cm	本	gm	%
月 日 7. 29	15	71.9	17.0	14.9	20.1	89	63.9	16.9	13.3	21.6	95
	20	77.2	17.5	15.6	20.5	100	68.1	17.5	13.9	20.2	100
	25	77.8	17.5	15.1	20.6	101	70.1	17.4	12.1	20.1	92
	30	81.7	17.1	15.0	20.0	98	74.8	16.2	13.7	18.5	92
月 日 8. 5	15	58.2	16.2	14.5	18.4	49	56.2	17.6	12.3	20.9	56
	20	75.8	17.3	15.5	19.7	83	66.1	18.2	15.2	19.5	80
	25	75.7	17.6	15.2	20.4	90	66.7	18.2	15.0	20.0	86
	30	89.0	17.7	15.4	19.7	91	73.8	18.0	14.8	18.6	86

\* 大分縣農業試験場

遅れるに従い大であり，品種では農林 29 号が豊凶差は少く，また苗代日数が短い程，豊凶差は気象により大となる。

結論 1) 7 月下旬移植では，農林 37 号を用い，

苗代日数は 20 日が好ましい。2) 8 月 5 日前後の挿秧では農林 29 号が安全であり，苗代日数 25 日が良い。3) 但し農林 37 号を用いる場合は，苗代日数 30 日を確保する必要がある。